

国語 1

国語

(50分)

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、
左記の注意事項をよく読むこと。

注意事項

- 1、問題冊子は、17ページまであります。
- 2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
- 3、始め、の合図でページ数を確認し、受験番号・氏名を書きなさい。
- 4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
- 6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて、監督の先生の指示に従って行動しなさい。
- 7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。

一次の文章を読み、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、すべて句読点や記号も字数にふくみます。

わたしは、暮らしや家庭の中にある科学をテーマにして、雑誌に記事を書くことがあります。料理の科学、生活の中に
あるキグのしくみなどを取りあげて、科学を専門としない人たちにも関心を持ってもらえるよう記事づくりを工夫します。
そんなとき編集者の注文はこうです。

「一般の主婦の方々にとっつきやすくするために、内容は科学のことであっても『科学』ということばは使わないでくだ
さい。『科学』と聞いただけで引いてしまう(そのページを読むことをやめてしまう)人がけっこういますから」

これは、わたしにとってはむしろかしい注文であることが多いのですが、編集者の言うことは、一般の人に対する情報発
信の^Bココロガマ^Bえとして、現時点では適切と言うほかありません。「科学」ということばを使うか否かが大きな問題なの
ではありません。読者である「一般の人たち」も、発信する側である「編集者」も、科学に対して距離を感じているとい
うことであり、それは、現在の「科学技術」と「それを使う人たち」の関係を象徴^ししています。作る側、発信する側は、
当然その内容を熟知し将来の方向性を提案しますが、それを使う側の人は与えられたものを十分に理解せず「買う」とい
う行動だけで受け入れていると言いかえられます。

一般に、「わからない」ことの原因のひとつに、分野がとても細かく分かれて、専門性が高くなっているということが
あります。複雑で専門性の高い技術が生み出された結果、エネルギー、動力機関、通信、食料生産や医療、衣服、娯楽
やスポーツまで、わたしたちの生活のあらゆる部分を科学技術がササ^Cえています。

技術、そして科学技術は、その時代に生きている人々によって求められ発展してきたものであるはずですから、わたし
たちはそれらの科学技術を使う主人公です。しかし、はたしてわたしたちの科学技術に対する理解は、科学の発展とともに
に進んでいるでしょうか……？

たとえば、あなたの周り^{まわ}で、「科学はむずかしいから」と決めつけて、苦手だと思^{おも}っている人はいませんか。あなた自身はどうでしょう。科学的理論と実用化のレベルが複雑で高度なために、一握^{ひとにぎ}りの人たちにしかわからないむずかしいものになってしまっているのは事実です。

専門家や技術者が作り出したものを、マニュアルの通りに使うことさえできれば、そのしくみなどを知る必要はない、という人もいるかもしれません。しかし、そのような使い方では、供給する側から示された技術の「良い部分」しか見えません。科学技術を提供する側からは「良い部分」しか聞かれないのだとしたら……。それらを使う主人公であるわたしたちは、与えられる情報だけではなく、科学的背景やしくみを少しでも知った上で、生活の中に取り入れるか、取り入れないのかを判断することが必要です。

良いこと（ベネフィット）も悪いこと（リスク）も考えながら科学技術とつきあっていく、その第一歩は、「知ること」です。生活の中にある科学技術。毎日使うならなおのこと、その技術が持っている能力や背景を意識し知ることに対して積極的にトライしてみませんか。

なかには、技術的に可能だから作ってしまったけれども、実際に使う立場、現場^Dにテ^じラして実践^{じっせん}的でないという場合もあります。

かつてミシンは足踏^{あしふ}み式でした。足下の、鉄製のペダルを両足でリズムカルに踏^ふみ、その力で動いたクランクが大きな輪を回転させます。輪にかかった革のベルトを通して、ミシン本体に動力を伝え、針の上下運動を作り出し布地を縫^ぬい合わせる、という実に巧^{たく}みな機械システムを組み合わせてできていました。

足踏みミシンは、足下のペダルと作業台の上の本体で構成されていますから、ミシン全体の大きさは小さな学習机ほどになります。戦前から高度成長期にかけては、どこの家でも座敷^{ざしき}のすみにミシンが置いてあり、母親は家族の洋服を仕立

国語 1

国語 1

てたり古くなった手ぬぐいを折り重ねて雑巾^{ぞうきん}を作ったりと、家族の生活に必要なものをミシンを使って作り出していました。しばらくして、ミシンは電動に変わっていきます。電動ミシンは足踏み式と違って、片足でペダルを踏めば高速で運針でき、「機械とタイミングを合わせる」という微妙^{びみょう}なテクニックは不要です。そして、ペダルの動力をベルトで本体に伝える機構が不要になると、ミシンは小型化していきます。こうなると、使わな^いいときに座敷のすみを占領^{せんりやう}することなく押入^{おし入れ}にしまうことができるようになりました。ポータブル³ミシンの登場です。

ミシンを使う人がだんだんと減ってきたのは一九七〇〜八〇年ごろからで、ポータブルミシンが登場した時代とほぼ重なります。 X ということも関係があるでしょう。

ポータブルミシンといっても、初期のものは足踏みミシンと同様、本体は鉄製。重いのです。二〇キログラムほどはあったのではないのでしょうか。縫^ぬい物をするときには押入から出すのが一仕事^(a)で、座敷のすみにあったころのように、カバー代わりの風呂敷^{ふろしき}をさらつと取ればよかつたのは勝手^(b)が違います。既製服^{きせいふく}がタイシユウ化^(c)し、ミシンかけの機会が減るとともに、都会の住宅事情^Fをハンエイ^Fしてコンパクトになったことは、進歩と言^いえたかもしれません。と同時に、いざ「ミシンかけをしよう」と思ったときに要する手間は大きくなりました。

そのころ商店街などを歩くと、ミシンのセールスマンが刺繡^H入りのエプロンをして、「新しく便利で、高機能な電動ミシン」のジツエン^G販売^Hをする姿がよく見られました。直線やタンジユンなジグザグ縫^Iいに加え、いろいろな形の模様縫^Iいや刺繡縫^Iいができるようになったりと、機能はどんどん増えていきました。しかし、雑巾を縫^Iったり、破れをシユウリしたり、洋服を仕立てるなど、家庭で使う機能は、ほとんど直線とジグザグ縫^Iいです。ヘビユーザーであればあるほど、直線かジグザグ縫^Iいで十分で、複雑な模様縫^Iい機能が活躍^Jする機会は、実際にはセンデン文句^Jほどは多くはありません。機能が増えたぶん実用性が増したかという^(y)と、それでもなかったのです。やがて、ミシンにはマイコンが搭載^Kされ、使い方はややこしくな^(y)っていきます。スイッチの数は増えるし、針や押^おさえ金などの部品の数もどんどん増えます。

(3)

(2)

問4 ——線部②『科学はむずかしいから』と決めつけて、苦手だと思っている」と同じ内容を表す別の表現を文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問5 ——線部③「ポータブルミシンの登場です」とありますが、その結果新たに生じたマイナスの面について三十字以内で具体的に説明しなさい。

問6 X に入ることばとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 既製の価格が安くなってきた
- イ 既製の価格が高くなってきた
- ウ 既製の流行が速くなってきた
- エ 既製の流行が遅くなってきた
- オ 既製の店が少なくなってきた

(6)

問7 ——線部④「どんどん使われない機械に『成長』していった」とありますが、ここから読み取れる筆者の考えとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ミシンの操作がだんだんと複雑になっていったことに対する不快感を表そうとしている。
- イ ミシンのスイッチや部品が増えていったことに対する頼もしさを表そうとしている。
- ウ ミシンが複雑な模様縫いができるようになったことに対する感動を表そうとしている。

国語1

- エ ミシンがしだいに使われなくなっていったことに対するさびしさを表そうとしている。
- オ ミシンが不要な機能を次々に搭載していったことに対する皮肉を表そうとしている。

問8 ——線部⑤『もっと』を望むわたしたちは、『もっとたくさんのブラックボックス』を増やそうとしている」について、

(1)「ブラックボックス」の文中での意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 機能は分かっているが構造の分からない装置。
- イ 構造は分かっているが機能の分からない装置。
- ウ 機能と構造のいずれも全く分からない装置。
- エ 機能に問題はあるが構造に問題のない装置。
- オ 構造に問題はあるが機能に問題のない装置。
- カ 機能と構造のいずれにも問題のある装置。

(7)

(2)『もっと』を望む「」ことが、なぜ『もっとたくさんのブラックボックス』を増や「すことになるのか、九十字以内で説明しなさい。

問9 《線部(Y)》「機能が増えたぶん実用性が増したか」とあり、その中でもなかったのです」とありますが、次の例にならって、あなたの身のまわりにあるそのような製品をひとつ挙げ、具体的に説明しなさい。

(例) 複雑な形の模様縫いや刺繍縫いができる機能があるが、実際には直線とジグザグ縫いの機能しか使わないミシン。

(8)

二次の文章は、原田マハの小説「幸福駅 二月一日」の一節である。北海道・帯広にかつて「幸福」という名の駅があり、「私」の母は、その駅舎で切符販売や売店の管理を任されており、中学生だった娘の「私」も母の仕事をよく手伝っていた。ある冬の日、東京から「幸福」という地名に興味を持ってやって来た「相原」という男性と、「私」と「母」は顔なじみとなり、相原も幾度か「幸福」を訪れるようになった。その相原が、ある晩、「私」の家に泊まることになった。以下の文章はそれに続く場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、すべて句読点や記号も字数にふくみます。

国語1

国語1

その夜、食事が終わってから、相原さんは、卓袱台の上にスケッチブックを広げて、いままで描き取ってきた北海道の風景を、母と私に見せてくれた。

漁村、草原、山々、寒村の道、峠……私も見ることがない、北海道各地の風景が、じゆうぶんな重力をもって、しっかりとそこにある。鉛筆のタッチは軽やかなのに、描いてある風景はありありと現実感を伴っていた。写真のようでもあったが、写真よりもずっと、血が通い、魂が宿っているような気がした。

「はあ、きれいだべ。こんなきれいな絵、見たことないべさ」

独り言のように、母が言った。母と頬を寄せてスケッチブックを覗き込んでいた私は、無意識にうなずいた。

「子供の頃から、絵が好きでしてね。見るのも、描くのも。しかし、卸問屋の経営者だった父に、画業に専念することは許してもらえなかった。戦争から帰ってきて、父の仕事を手伝いながら、絵の勉強を続けたのですが……」

八年ほどまえ、父親が他界して、会社を継いだ。すっかりやらねばと思ひ、実際そうしてきたが、その原動力は絵を描くことだったと、相原さんは教えてくれた。

「絵を描いていなかったら、頑張つてこれなかったかもしれない。僕は、戦時中、爆撃機戦隊の所属でした。フィリピ

(9)

ンから帰還途中に、沖繩沖に不時着して……漂流しているところを、奇跡的に助けられたんです。一方で、弟は戦死してしまつた。どうして自分は生き残つたのかと、自①自②の苦しい日々でした」

そんな自分を救つてくれたのは、絵を描くことだつた。

美大に通つたわけじゃない。③取り④取り教えてくれる先生がいたわけでもない。絵などとは、縁もゆかりもない人生のはずだつた。

それなのに、強く魅かれた。コンテを、鉛筆を、絵筆を手にはせすにはいられなかつた。何が描きたいのかもわからなかつた。ただ、がむしゃらに、自分の身邊にいる人たち、目に映つた風景を写し取つた。

もとより、自分は天才肌の絵描きではない。口を糊するために、卸問屋を営んでもいる。それでも、実直に、ひたむきに、絵と向かい合つた。仕事以外のほとんどすべての時間を、絵の制作に捧げてきた。その努力が徐々に実り、いくつかの展覧会にも入選し、個展を開くまでになつた。

「でもねえ。五年ほどまえだつたかな……絵画の世界に、新しい風が吹き始めてね。いままでのように、身の回りのものと、目に見える風景じゃなくて、もつとこう、かたちがなくて、中心がなくて、対象がなくて……ぼやつと、色と、タッチ。筆の流れるような、叩きつけるような感じ。そういう絵こそが、新時代の絵だつていわれるようになってね。僕も、ずいぶん感化されてしまつた」

その絵画は、アンフォルメル。抽象画と呼ばれるものなんだと、相原さんは言つた。

そのアンフォルメルという、魔物のように不思議な絵の手法に、相原さんはすっかりからめ捕られてしまつた。まるで、底なし沼のようだつたと言う。新進気鋭の画家たち、そして大家も、誰も彼も、アンフォルメル、アンフォルメル。ならば自分もと、人物も風景も消し去つた、色彩と筆致の洪水のような絵を、次々に描いた。

結果は、散々。どの展覧会にも入選しなくなつた。アトリエに並べた自作の絵、どれひとつとつて見ても、とても自分

国語 1

国語 1

の絵とは思えなかつた。

描けない。もう描けない。自分は、終つたのだ。

これでも、画家のはしくれなのだと思つていた。なんという、甘い幻想。誤解。思い込み。馬鹿げた男だ。他人の真似して、最先端のアンフォルメル絵画だと？ 笑わせるな。

どこまでも、自分を追い込んだ。このままでは、卸業のほうにも影響が出てしまう。

絵筆も、カンヴァスも、すべて捨てよう。そのほうがいい。

これが最後と決めて、スケッチブックと鉛筆だけを携え、晩秋のある日、遠い、遠い場所——北海道へと赴いた。ほんの一年まえのことだ。

そこで、相原さんが見たものは、無駄なものが一切削ぎ落とされた風景だつた。

果てしない地平線、並び立つ森林の木々。屹立する雄々しい山々。肩を寄せ合うようにして集まっている漁村の家々ですら、泣けてくるほどつくしく映つた。

この大地の、驚くべき風景。すべてが現実のものであり、ひとつひとつがかたちを為した具象であるのに、限りなく抽象に近い。線と、面と、おおらかな色彩と——静かな生命力と。

描きたい。このすべてを、写し取りたい。自分の目で。自分の手で。

それまでの人生で、もつとも強く、もつとも激しく、相原さんは望んだ。自分は、この地の風景を描きたいと。

「それからずっと、夢中なんです。がむしゃらなんです。絵を描きたくつて、泣けてくるんだ。ここへ来なかつたら、僕はもう、画家としては終わつていたでしょう」

北海道に救つてもらつたと思つているんです。そう言つて、相原さんは、自分の身の上話を結んだ。

私は、スケッチブックのページを、そつと指でめくつた。

水彩絵の具で色がつけられているものもあった。深い灰色を帯びた茶、青みを帯びた白。ほとんどが、冬の風景だった。「どうして、冬ばかり？」

私の質問に、相原さんは、「北海道は、冬がいい」と、短く答えた。それから、続けて言った。

「全部、雪で覆われるだろう？ そうすると、ほんとうのかたち、ほんとうの色が出てくる。厳しい状況じょうきょうにおかれていますと、何くそ、負けるもんかって、力が出てくる。その輝かがやきに満ちているんだ」

⑤ 人間と、おなじ。そう感じるんだよ。

その言葉が、いつまでも、私の胸の中でこだました。

(原田マハ「幸福駅 二月一日」による。問題作成にあたり、一部表記をあらためた。)

注 ※卸問屋…生産者から仕入れた商品を小売業者に売り渡すことを仕事とする商店。

問1 〰〰〰線部(a)・(b)の語句の本文における意味の説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

(a)「口を糊する」

- ア 必死に努力する
- イ 社会に奉仕ほうしする
- ウ 何とか生活する
- エ 誰にも何も言わない
- オ あまり自慢じまんをしない

(b)「感化されて」

- ア 少し感傷的な気持ちになって
- イ 説得されて気持ちが変わって
- ウ 感動のあまり気持ちが揺ゆれて
- エ あまりの驚きに気持ちが揺ゆれて
- オ 影響を受けて気持ちが変わって

問2 空欄①～④の中に漢字を一字ずつ入れ、文意が通るようにしなさい。

問3

——線部①「北海道各地の風景が、じゅうぶんな重力をもつて、しっかりとそこにある」とありますが、「じゅうぶんな重力をもつて」という表現は、どのようなことを言い表した言葉ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 実際の風景の本質が確かに描かれていると同時に、鑑賞者を引き込むほど存在感や迫力があると感じられるということ。
- イ 本当はすがすがしい風景が意識的に重厚に描かれていることで、人間的な温かみや思いがひしひしと感じられるということ。
- ウ 現実には存在しない風景を描いているにもかかわらず、描き手の対象をとらえる気力がずっしりと感じられるということ。
- エ 誰も見たことがない風景を空想して描いているけれど、自然を敬い親しむ気持ちがありありと感じられるということ。
- オ 「私」も見ただこともない風景が写真のようにありありと描かれている一方で、どことなく重苦しさが感じられるということ。

(14)

問4

——線部②「新時代の絵」にあてはまるものを全て選び、記号で答えなさい。

- ア 人物と風景だけの絵
- イ アンフォルメル
- ウ 色彩と筆致の洪水のような絵
- エ 目に映る風景を描いた絵
- オ 中心も対象もない絵
- カ 形が明らかな絵

国語1

国語1

問5

——線部③「とても自分の絵とは思えなかった」とありますが、それはなぜですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア かつて大好きだった絵を描くという自分の思いからは離れて、ただ作品を義務感でしか描いていないことに気づいたから。
- イ 風景に即した絵を描く自分のスタイルからはほど遠く、時代の流れに飲み込まれただけの模倣に過ぎないと実感したから。
- ウ 他人に評価してもらえないほど絵の技術は上達していたのに、新時代の画法にはまだまだ及ばないことがはっきり分かったから。
- エ 仕事をしながら絵を描く中に良さがあったのに、最先端の絵に踊らされ仕事もせずに絵を描いていた自分が許せなかったから。
- オ 展覧会でやっと少しずつ認められていた自分の絵が、新時代の絵によって見向きもされなくなったのが悔しかったから。

(15)

問6 ———線部④「なんという、甘い幻想。誤解。思い込み。馬鹿げた男だ。他人の真似して、最先端のアンフォルメル絵画だと？ 笑わせるな」とありますが、その部分の表現上の特徴とその効果を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「自分」をのしるような簡潔な文を続けることで、幻想が浮かぶほど「自分」が追い込まれていることを読者に強調する効果。
- イ 「自分」のことを非難する他人の言葉を次々と引用することで、「自分」が画家として終わってしまったことを読者に印象づける効果。
- ウ 「自分」がしてしまった失敗を短い文で続けざまに並べることで、「自分」が犯してしまった罪の責任を読者にうったえかける効果。
- エ 「自分」のことを否定するような言葉を短文で続けることによって、「自分」が自らの行動を問いただしていることを読者に伝える効果。
- オ 「自分」の状況をありのままに短い文で並べたことで、実際に「自分」には才能がなかったことを読者に実感させる効果。

(16)

問7 ———線部⑤「人間と、おんなじ。そう感じるんだよ。」とありますが、

- (1) 人間と何が同じだと感じるのですか。十字以内で説明しなさい。
- (2) (1)の解答と「人間」のどのような点が同じだと感じるのですか。五十字以内で説明しなさい。

国語 1

国語 1

問8 ———線部(x)「北海道に救ってもらったと思っています」と「相原さん」が述べる理由は何ですか。

「相原さん」の人生と関連させて、百字程度で説明しなさい。

(17)

